

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490400112		
法人名	社会福祉法人 安全福祉会		
事業所名	グループホーム 安全の里		
所在地	三重県亀山市住山町590番地1		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町提出日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigovsvCd=2490400112-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者ができることを探し、生活リハビリとして職員と一緒に実施し、役割や、やりがいを持ってもらい、自立支援に努めている。また、外部の理学療法士と連携を行い、機能訓練にも積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は周りを自然豊かな木々に囲まれた広大な敷地内にあり、同一経営法人による養護・特養・通所介護・居宅介護支援事業所が隣接している。コロナ禍の影響で外出や面会も制限される中、介護課長・管理者は職員と共に外出に代わる物の工夫を考えながら、利用者ファーストを心掛け、自分の親のように寄り添って支援し、利用者の出来ることはしてもらう等、利用者一人ひとりを尊重し、その人らしい生活の支援が出来るように取り組んでいる。また、行政から依頼の認知症サポーターマスコット作り、節句ごとの行事作品を作るなど家庭的な雰囲気の中できめ細やかな支援に努め、家族からの信頼の厚い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所でキャッチフレーズを考え支援を提供している。	法人の理念の他、事業所独自に目標を決めキャッチフレーズとして玄関に掲げている。それを職員会議などで周知し、利用者本位で利用者の出来る事を把握し、自立に繋げるよう支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出行事を行うもコロナウイルス感染対策で日常的な交流は図れなかった。	コロナ禍が収まりつつあり、少しではあるが訪問を増やしている。地域の情報は民生委員を通じて得ることが出来ている。利用者の手作り作品は12月に地域のセンターに出品する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響により地域貢献はできていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月より運営推進会議を再開し、各関係者に活動報告を行い、事業所を理解してもらえよう実施している。	コロナ禍の影響で長い間、書面による報告を行うのみであったが、今年8月に久しぶりに対面で開催した。利用者状況・事業報告の後、利用者の食事の業者委託もあり試食をしてもらいながら質疑応答もありで有意義な運営推進会議となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との協力関係の構築、体制はできているが、密に連絡は取りあっていない。	広域連合には利用者の入・退居時の連絡に出かけている。地域包括支援センターには利用待機者の情報を得たり、運営推進会議の出席依頼に出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、共有を図っている。	身体拘束適正化検討委員会を3か月毎に開催している。毎月の職員会議などで拘束（身体・言葉）虐待防止について外国人の実習生受け入れの関係から研修している。拘束については全職員が理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を行っている。改定がある時はその都度、文書と口頭にて説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的な電話連絡等により、近況報告や相談等を随時、行っている。	コロナが5類に移行し、家族との面会も窓越しから玄関内になり訪問が増えた。意見や要望が直接聞ける家族会はコロナで中止している。毎月、2~3回は利用者家族と連絡を取り、近況報告をし、意見・要望を聞く工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で職員の意見を聞き取り反映に努めている。	上司との個別面談はないが職員とは何かあれば日常の支援中でも、その都度、介護課長が面談をしている。最近では職員の勤務体制について細やかな提案が出て「一応やってみる」の合言葉で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて定期的な給与規程の見直し、勤務状況の把握を行い、職員の労務実態を常に把握し、過労等がないかを注意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はほぼ参加できなかったが、法人内の新人研修等、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会がなく、同業者との交流は図れなかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の中で、積極的に関わりを持つことを心がけ、職員間で共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に連絡を取り、要望等を聞き取り、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態が変化していく中で随時、報告、相談、提案を行い、連携医療機関等にも相談し助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の尊厳を尊重した関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限が緩和され、以前に比べて交流は増えている。	利用者の入居年数により馴染みの人との関係継続は難しいが、コロナが5類に移行し家族・知人との面会も増え利用者が喜んでいる。受診の帰りに自宅周辺や馴染みの場所を通るなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各職員が利用者同士の関係性を把握し、テーブルの配置等、工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設でも安心してサービスが受けられるように退居前の相談、他施設との情報提供を行い、連絡を取りフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で思い等を聞き取り、また家族にも情報収集を行い、把握に努めている。	殆どの利用者が自らの思いを伝えることが出来るので、日々に対話で聞いたことは連絡ノートやタブレットに入力し、職員間で共有し、一人ひとりに合った支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや家族の情報をもとに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で様子観察を行い、職員間にて情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、ケース会議にて意見を出し合い、意見を反映し介護計画を作成している。	毎月のケース会議で利用者の介護状況、家族、担当職員の意向も取り入れながら介護計画書を作成している。その後モニタリングと評価を行い、利用者の現状に即しているか確認の上、支援を話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICT、連絡ノートを活用し介護記録を入力し、申し送り等で情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出等、ニーズにより対応できない事もあるが、できる限り柔軟に対応していくように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域資源の活用しきれていないが今後、更に把握し、活用していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、主治医との情報共有を行い、関係も良好に築けている。	家族の協力で受診しているかかりつけ医が3名、職員同行の受診6名が協力医である。週1回の看護師、月2回の歯科医の往診もあり24時間対応で主治医の指示の下、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、訪問看護ステーションと随時連携し、適切な看護や助言を受けられる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	随時、家族、病院関係者との情報交換や相談を行っている。また訪問看護ステーションからの助言や協力もあり、病院関係者との円滑な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化、重度化が進行していく中で、家族医療機関に相談し連携を取り支援に努めている。	事業所として看取り支援はする方針である。入居時に利用者・家族と事業所の終末期のケア方針の説明と同意、緊急時の具体的な支援の在り方などを話し合い共有している。職員も法人研修・施設内研修を受け理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員、訪問看護師の助言を受けて対応している。また、施設内学習会にて緊急時の対応についての知識を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練、また施設内学習会にて意識の向上を図っている。	年3回、併設の母体法人施設と合同で防災（特に火災・地震）避難訓練をしている。また、消防署立会いで夜間想定、救命救急など一連の訓練をしている。生活必需品の備蓄は3日分保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや、利用者一人ひとりにあった言葉かけの工夫を随時考え情報共有を行っている。	管理者・職員は、日常の何気ない一言で利用者を傷つける事の無いように職員間で話し合い接遇マナーを研修している。また、法人として入社時には「プライバシー保護」の課題を取り上げ理念と共に研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、本人の思いを聞き入れ、自己決定してもらえよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の生活スタイルやペースを把握しながら、利用者の希望に沿った利用者主体の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりのこだわりや、嗜好を把握し支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望を調査し、誕生日や行事食に提供し、時には利用者と一緒に調理の手伝いをしてもらい関わりを持っている。	ご飯・汁物は職員が作り、おかずは6月より業者委託に切り替えた。今年も中庭の畑で採れた数種類の野菜がおかずの一品に加わった。利用者は収穫する時やリクエストの誕生日食は笑顔となり、食べる楽しみを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事中の観察やを行い、記録し、情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを職員が付き添い実施し、定期的な歯科往診にて助言を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄状況を確認、共有を図り、話し合い、変更等を行っている。	利用者個々の排泄パターンをタブレット入力で把握し、それを参考に声掛け、一部介助、見守りで自立支援を常に考慮しながら、現状のレベルが落ちないように全員トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便リズムの把握に努めており、排便表を確認し、看護師、主治医と連携し下剤の扶養等にて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎週2~3回入浴してもらえる様に本人の思いや体調を考慮し誘導を行っている。	週3回、午後からの入浴を基本としているが、利用者の体調により回数は柔軟に対応している。全員が湯船に入れるので、職員と対話しながらゆったりと寛ぎながら楽しんでもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や照明等の環境整備を行い、就寝前には心穏やかに過ごしてもらえる様に声かけや関わり方に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤ファイルにて職員に内容を確認できるようにしている。また、薬の変更があった時は随時、連絡ノートや介護記録に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の得意なこと等を把握しながら、職員と一緒に生活リハビリを兼ねて洗濯物たたみや、掃除、調理を支援し、役割づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事の他、天気の良い日は、中庭の散歩、外でのお茶会、畑にて農作物の収穫等を行っている。	日常的に戸外へ行く事は少ないが、四季の花々を見に庭に出たり、短時間の車窓ドライブで外出気分を味わってもらう工夫をしている。	職員の提案で利用者には「いつも笑顔でいてほしい」との思いがあり、コロナ終息を見据えて、外出レクの在り方（外食・買い物・見学・・・等）を検討するよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は本部の事務所にて預かっており、日用品の購入や理髪、受診等の際は、預かり金にて支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある際は、施設から連絡を取り次ぎ支援している。また、面会時に家族からの手紙を受け取り、読んでもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の掃除や整理整頓、室温調整を随時行い、また、季節の花を生けたり、毎月利用者と一緒に壁紙を作成し、季節感を感じてもらえるように努めている。	居間兼リビングの高い天井、開閉できる天窓からは光が差し込み明るい。特注の机は組み合わせが可能で利用者の相性で配置を変えている。好みの番組を見るテレビが2台、ソファも置き、利用者の憩いのスペースとして広いリビングが活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や希望を考慮し、居心地の良い空間づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や、家族の協力を得て、好みの物を持って来てもらい環境づくりを行っている。	事業所としてエアコン・ベット・洗面台が設置されている。更に3つの居室はトイレ付である。利用者が使い慣れた家具やお気に入りの写真などを飾り、ゆっくりと過ごせる居心地の良い居室となっている。どの居室も掃除が行き届いていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分からない利用者には表札を作成したり、少しでも自立できる環境づくり、整備に取り組んでいる。		